

第3回 地図を持って観察に行こう！ 宇治大吉山～朝日山

日 時 2021年3月7日（日）
場 所 宇治大吉山～朝日山
集 合 京阪宇治駅前
天 候 晴れのちくもり
参加者 12名



自然観察指導員京都連絡会が製作した『京都府自然観察地図』（2003年）を元にした観察会の3回目です。新型コロナ緊急事態宣言解除により、当初2月に予定していたものを上記に実施しました。

陽ざしは暖かでも風は肌寒く感じられました。上着の選択にひと思案です。大吉山（131.6m）、朝日山（124m）はペルム紀の赤色チャート層が見られる箇所があり、日本の山の多様性や地形について興味を抱かせてくれた場所でもあります。勉強するつもりで、書籍だけは買ってありますが・・・

草花は、宇治上神社までの路傍にノボロギク、ハルノノゲシ、タネツケバナなど、おなじみの花が見られ、帰路の宇治川沿いには、ウマノアシガタも咲いていました。山道ではナガバタチツボスミレが所々に見られました。



ナガバタチツボスミレ

宇治上神社手前のカンヒザクラ（寒緋桜）が見頃で、ワインレッドのような濃い色が目を引きました。花は下向きに釣鐘のように垂れているのが特徴です。正式にはヒカンザクラ（緋寒桜）だそうですが、別種のヒガンザクラ（彼岸桜）と混同しないようにと、付けられた名称です。またその近くには、黄色の小花が集まったサンシュユも見頃で、春を感じさせてくれました。

宇治上神社内には樹齢300年の大ケヤキや、神社定番のオガタマノキ、サカキ、またモチノキ、シャシャンボ、トウネズミモチと並んで植えられています。



サンシュユ



カンヒザクラ（寒緋桜）

モチノキの肉厚でのっぺりとした感触と、葉の付け根の両側に花芽がたくさん付いているのを確かめました。

この時期、御祭神の菟道稚郎子にあやかって、参拝される方も多いと思います。

ウサギの形のおみくじは珍しく、人気のようです。拝殿脇のクチナシの葉は随分と喰われていて、オオスカシバが話題になりました。もう地面のどこかで蛹になって出番を待っていることでしょう。

宇治上神社から展望台まで、ジグザグの登山道になり（東海自然歩道のコースにも含まれている）、ツバキ、サザンカ、キンモクセイなど、小、中学校の卒業記念などの植樹も多く、付けた札が風に揺れていました。ツバキの八重の花は重量感たっぷりでした。



ヤマガラ



トサミズキ

地図上に表記のクリは伐られており、この辺りのコナラはナラ枯れの被害があるようで、伐採され朽木となっていました。樹皮の表面が薬剤で、てかてかになっているのも見られました。今後どうなるのでしょうか。

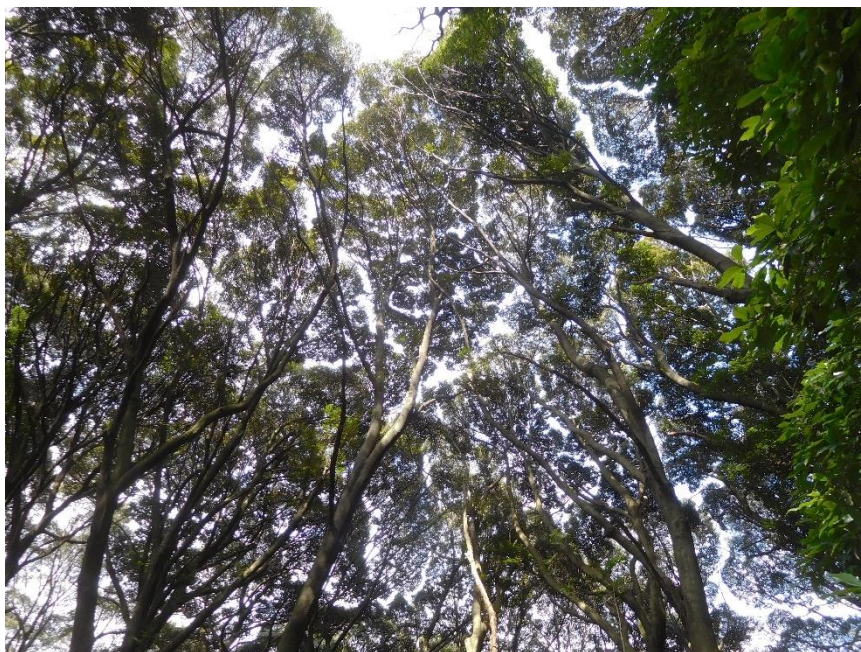
ウワミズザクラは葉が出始め、ヤマザクラは花が咲き始めていました。

ヤマブキの道、モチツツジの道と上がっていき、まだ固いモチツツジの花芽も触ってみました。ヤマモモは、葉をつけた小枝が結構落ちていました。山道を歩いていると、どこからかヒサカキの独特の香りもしました。

大吉山と朝日山に至る 2、3 カ所にシイ林があり、足元に沢山ドングリが落ちていました。

シイ林と言えば、樹冠ですね。ジグソーパズルと形容されるそれを見上げると、以前にも撮ったけれどまた写真に収めたいくなります。高く高く伸びて、お互い葉が重ならないように枝を伸ばしている姿には、感動を覚えます。

展望台にはおなじみのヤマガラが餌をついばみに来ており、なごませてくれました。林では他に、メジロ、シジュウカラ、エナガ、イカルの声も聞かれました。



ジグソーパズルのような樹冠

朝日山から志津川方面へ下る途中、コシダ、コバノミツバツツジなどがありました。また、お椀形のメジロの巣が落ちていて、古い巣かもしれませんが、両手に収まる大きさでコケや小枝などで器用に作ってありました。こういうのを見ると何だかうれしくなります。ラブラブなカラスのカップルも見ました。そういえば、駅近くの大きな落葉樹にカラスの巣を見ましたが、そろそろそういう季節になったのだなあと思います。



ホシハジロ（上）、キンクロハジロ（下）

帰路、天ヶ瀬ダムを奥にみて、宇治川右岸沿いに戻ると、川の上空に何やら見覚えのある鳥が十数羽飛びまわっていました。あれ、もうツバメが来てると思って、詳しい方にお聞きしたら、居残り組のツバメやイワツバメとのことでした。でも、もうそろそろやってきてもおかしくない時期でしょう。

これから、春夏秋冬の一年、観察を通してまた色々な収穫がありますように。

（榎）



ヤドリギがいっぱい！



ヤドリギ



タチツボスミレ